

季節のぜいたく
⑥ 山菜の香り

ほわわ〜んと鼻に抜ける初夏の香り。

御蕎麦屋さんのメニューで、ふきのとうやいたどりのてんぷらを見つけた。そういえばスーパードモたちの芽やウドが並んでいた。このあいだまで寒い寒いと思っていたのに。もうそんな季節か、と思わず注文した。

この時期になると、山では若い芽が一斉に育ちだす。子どもの頃は食べるよりも採ることのほうが楽しかった。苦くて青臭いのはイヤだったし、形も変だと思っていた。でもいつの間にか、そのほろ苦さや土の香り、とろりとした舌触りに、初夏の訪れを感じるようになった。実に美味しい。大

人はいいいものだ。初めて出会う山菜さえもどこか懐かしく感じるのはなぜだろう。

とはいえ、山のものは野生だから、食べるのには手がかかる。重曹で下ゆでしたり一晩水につけたり、ついた土をそっと洗ったり。自分でつくるのがまだ億劫な私は、母のつくる料理や街の店で出会うメニューが待ち遠しい。

今は面倒だと感じるそのひと手間が贅沢と感じられるようになった時が、もう一まわり大人になれたときなのかも知れないな、などと頷きつつ、そばに先駆け運ばれてきたてんぷらに塩をちょいちょいといつける私なのであった。⑥

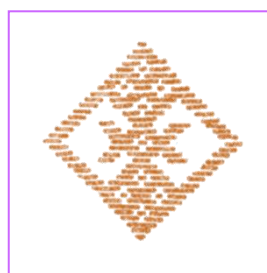


モドコ・アレコレ
⑤ テコナ

春になると、道端の植え込みをひらりと……

今回ご紹介するのは「テコナ」。青森県に伝わる、蝶の古い呼び名です。

モドコの形からも羽根を広げた姿をイメージすることができ、ますよね。他のモドコに比べるといくらか和の印象が強いでしょうか。少し大ぶりのモドコです。上下に「四つ花ッコ」のモドコが含まれているので、花に寄っていく姿とも見えます。図案をつくるときにその角を意識すると面白く組み合わせることができます。



👉 テコナ

蝶は、読む音が「長」「丁」と同じことから、日本では長寿や子孫繁栄の象徴として様々な美術

品の装飾に登場するほか、平家やその流れをくむ武家の家紋にもなっています。世界各国でも、不死や復活、願いをかなえてくれるなどの言い伝えがあるようです。

五月になると、暖かい日に大きなアゲハ蝶が飛ぶのを目にします。飛ぶ姿はひらりひらりと、他の蝶よりも少しゆったりとしたリズムで、まるで舞うよう。その動きには意思があるような気さえて、昔の人々が蝶に不思議な力を感じたのにも納得の、神秘的な美しさです。羽根模様など、ステンドグラスにまけない複雑さ。子ども時代にさなぎの羽化する様子にドキドキしたことが思い出されます。あの時庭の山椒の枝についたさなぎから生まれたアゲハは、ほんのりと山椒の香りがしました。懐かしく親しみ深い姿です。

「テコナ」を刺すときには、ぜひお好きな蝶の姿や、子どものころ追いかけた記憶を思い出してみてはいかがでしょうか。⑤

季節の花ツコ

① ハマナス

「ぎんのみど」によつかわれる「花ツコ」。刺す季節や使う色によって、想像する花も違ってくるはず。季節の花を探そう。

今回ご紹介するのはハマナス。きれいなピンクや白の花を咲かせる、バラ科の花だ。バラといっても華やかというより優しげな印象。海岸沿いに咲いていることが多い。

日本海の手辺をドライブする度に、きれいな花だなあとはいっていた。濃緑の葉と、ふわりとした花の鮮やかさとのコントラストが夏らしく可憐だ。背景に高い空や海があればなおさらだ。何ともいえぬ情緒のあるたたずまいである。

花が終わるとオレンジの実がつく。この実が梨に似ていたことから「はまなし」が変化して「はまなす」になったそうで、日本では主に北の浜辺に分布するというのでこの音の変化にも納得だ。

この実はローズヒップともいうので、ハーブ好きの人にはお茶やジャムでお馴染み。作家の三浦哲郎は『はまなす物語』という恋愛小説を書いている。北海道の襟裳岬と、天橋立が名所だ。

5月の一句

えーい、築地で仕入れたうんまい魚だ
よ！ ほったが落ちるよ！

「初鰹」聞きぬ。本日残業できぬ

(実)

初鰹は江戸の風物詩だろうだ。江戸時代、初ものを食べられると聞くと、人々は家路をいそいだ。食いしん坊の彼らは、季節の美味に誰より早くありつこうと夢中だった。毎日PCとにらめっこの私も負けはしない。仕事をばっばと終わらせて、今日は、早くかえろう。

《新連載》 本日も気どリスト

① 地元っ子気どリ

ときには何かを気どってみると、新鮮な時間を過せます。人はだれしも気どリスト。

日頃、エアコンで乾ききった執務フロアに閉じこもってイモムシのように仕事をしているのは私だけではないはず。連休とは、休むのではない！ リフレッシュしにゆくのだ！ 生憎の雨予報をよそに、旅行雑誌を凝視。じゅっ。なまった身体が、旅行にどれだけ耐えられるかなんて考えない。思いつきの一泊二日・小旅行だが、ここは入念に計画だ。

行き先は佐渡島。歴史、文化、自然豊かな、ちいさな島だ。朱鷺のひなを愛で、地魚寿司をつまみ、宿では源泉掛け流しの温泉、夕食を楽しみ、お土産もゲット。さらには、佐渡おけさのショーを見て、砂金もすくっちゃおう。

小さいと思っていた島も着いてみると意外に広かった。免許を持たない私だが、そこは路線バスを

乗りこなすことにした。もともとバス好きの私にとっては、スムーズな乗り継ぎはかえって至福である。一日目は予定通り。充実感で床についた。

ところが次の日、宿に忘れ物をしたところから私の「完璧プラン」の雲行きがややしくなってきた。ひとつ綻ぶと、どんどん歯車が狂う。前日のようにバスの乗り換えもうまくいかず、ぼっかりと長い時間が空いてしまった。

非常に弱った。だがいつそのこと聞き直って島の住人のようにぶらぶらしてみることにした。砂浜に寄り道したり、小さなスーパードアイスを買っておやつにしたり。こころの地元っ子はこういう感じかしら、なんて考えるうちに、ちょっとしよげながらも思いのほか楽しんでる自分がいた。

「完璧プラン」もいけれど、こんなふうになんげりと街の空気を楽しむ旅も悪くないな。ようやくプランを軌道に戻した帰り道、ジェットfoilで嘘かホントか「くじらにご注意」というアナウンスを聞きながら、ほっと一息ついたのです。

(実)